

ミシシippアカミミガメの低密度下における2種のワナによる捕獲有効性の検討

八木愛・片岡友美・土屋真理絵・佐藤方博（認定NPO法人 生態工房）

Investigation of the capture effectiveness of Red-eared sliders by two kinds of trap under low density

By Ai YAGI, Tomomi KATAOKA, Marie TSUCHIYA and Masahiro SATO

東京都立石神井公園（練馬区）では2007年にミシシippアカミミガメ（以下、アカミミガメ）の防除を開始し、近年は低密度状態が続いている。当地ではこれまでにさまざまな種類のワナが使用されてきたが、近年は日光浴ワナとカゴワナが主となっている。アカミミガメが低密度化した当地では、どちらのワナがより有効であるのかを検証した。

解析には2015年から2017年のデータを使用した。日光浴ワナは4月から冬までの期間に3~5基設置し、4月から8月までは月2~5回、9月以降は月1回の頻度で回収した。カゴワナは4月下旬から9月上旬までの期間に20~25基設置し、月2~5回の頻度で回収した。カゴは一昼夜設置した。

いずれの年も、日光浴ワナで多くのアカミミガメが捕獲され、低密度状況下ではカニカゴよりも日光浴ワナの方が有効であった（図1）。カゴワナは設置してから数日以内に回収するので、防除活動日にはその都度、設置または回収する必要がある。日光浴ワナは、防除期間中、常設しておくので手間が少なく、コスト面でも優れていた。

参考として、2008年5月から10月に行われた渋谷区立鍋島松濤公園での捕獲調査結果について述べる。当地ではアカミミガメの防除が行われておらず、高密度に生息していた。当地ではアカミミガメは日光浴ワナよりもカゴワナで多く捕獲された。ただし日光浴ワナでも、5月~7月にはよく捕獲された。

防除を始めたばかりの場所ではカゴワナを使用し、防除の進展にともないアカミミガメが低密度になってきた段階では日光浴ワナを積極的に活用するなど、状況に応じて使用するワナの種類を使い分けることで、効率よく防除を進めることができると考えられる。

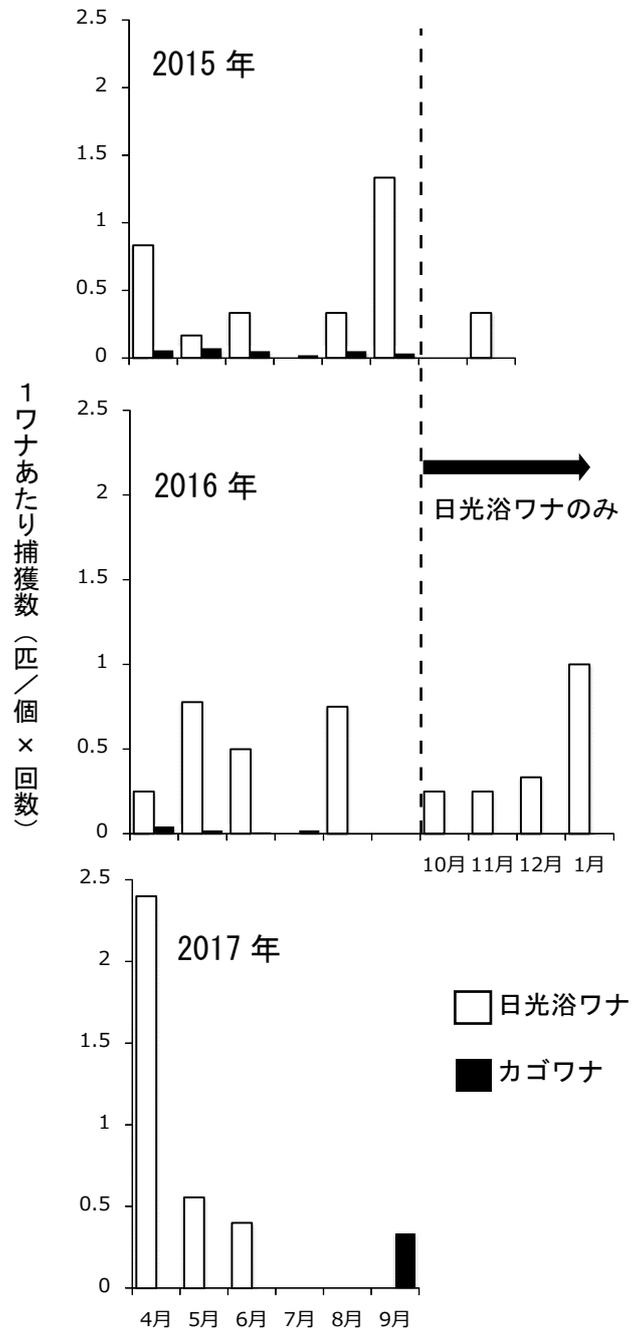


図1. ワナ別の1ワナあたりの捕獲数（年別月別）